

軍事機密

Handwritten signature or mark

日本國泰國間同盟條約

Handwritten notes: 五月二十日 大塚本休 昭示

Handwritten mark: ヲツ

大日本帝國政府及泰國政府ハ東亞ニ於ケル新秩序ノ建設カ東亞興隆ノ唯一ノ方途ニシテ且ツ世界平和ノ恢復及増進ノ絕對要件タルコトヲ確信シ之カ障害トナル一切ノ禍根ヲ芟除根絶スルノ確固不動ノ決意ヲ以テ左ノ通り協定セリ

3

0092

第一條

日本國及泰國ハ相互ノ獨立及主權ノ
尊重ノ基礎ニ於テ兩國間ニ同盟ヲ設

定ス

第二條

日本國又ハ泰國ト一又ハ三以上ノ第三國
トノ間ニ武力紛爭發生スルトキハ泰國

0093

又ハ日本國ハ直ニ其ノ同盟國トシテ他
方ノ國ニ加擔シ有ラユル政治的經濟的
及軍事的方法ニ依リ之ヲ支援スヘシ

第三條

第二條ノ實施細目ハ日本國及泰國
ノ權限アル官憲間ニ協議決定セラル

ハシ

0094

第四條

日本國及泰國ハ共同ニ遂行セララルル戰
争ノ場合ニ於テハ相互ノ完全ナル諒解
ニ依ルニアラサレハ休戦又ハ講和ヲ為ササ
ルヘキコトヲ約ス

第五條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セララル可ク

0095

且拾年間有効トス

締約國ハ右期間満了前適當ナル時

期ニ於テ本條約ノ更新ニ關シ協議

スヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當

ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十六年十二月二十一日

0096

即ち佛曆二千四百八十四年十二月二十一日

盤谷ニ於テ本書ニ通テ作成ス

0097

軍事極秘

南總作命乙第 布

南方軍命令

十二月 日 頁

第十五軍司令官ハ日泰同盟條約ノ締

結ニ伴ヒ海軍ト協同シ南總作命甲第

六號ニ示ス事項ノ外泰國軍事當局ト

ノ間ニ協同作戰ニ關スル協定ヲ行フヘシ

前項協定ハ別冊第一、日泰協同作戰ニ

0098

關スル協定案ニ依ルモノトシ同協定ニ基
ク細部ニ關シテハ別冊第二協同作戰ニ
關スル協定細部事項ニ準據スベシ
南方軍總司令官伯爵寺内壽一
下達法
通報先

0099

字體の修訂は行字のせうに

別冊第一

日泰協同作戰ニ關スル協定案

第一條 日本國泰國間同盟條約第二條

ノ場合日泰兩軍ハ協同シテ作戰ス

第二條 日本軍ハ協同作戰ノ爲~~ハ~~專~~ク~~ニ

泰國內ニ駐留シ又ハ泰國內ヲ通過

シ若ハ泰國內ニ於テ作戰ス

第三條 協同作戰、爲泰國軍日本軍。

作戰ニ呼應シテ泰國、防衛ニ任シ日本軍

ハ所要ニ應ジ之ニ協力ス

前項、外日泰兩國軍協同シテ泰國

外ニ進攻シテ作戰スルコトアリ

第四條 前諸條實施、爲泰國ハ作戰航空

及防空沿岸防備軍事警察運輸

及交通通信氣象衛生情報宣傳

防諜等ニ關シ密ニ日本軍ニ協力スルモノトシ

日本軍之ヲ支援ス

第五條 泰國ハ協同作戰ノ爲左記諸項ニ

關シ日本軍ニ凡有便宜ヲ供與ス

一 泰國ノ航空防空運輸及交通通信氣

象衛生等ノ各機關及工場施設倉庫

等、使用並ニ之等、新設增強

五、軍用資材糧秣及勞力、蒐集及利用

五、泰國國內ニ在ル日本軍、宿營及給養

第六條 第四條~~條~~^{第五}條、細部ニ關シテハ別

ニ協議實行シ又ハ協定調印ス

第七條 本協定及本協定ニ基テ細部ノ協

定ハ秘密トシ將來ニ於テモ公表スルコトナシ

0103

第八條 本協定、^効協力、署名ト同時ニ發

生スルモノトシ其ノ終期ハ同盟條約ト同一

トス

0104

別冊第二

協同作戰 = 関スル協定細部事項

曰 泰協同作戰 = 関スル協定第四條及同

第五條 = 基ク細部ノ事項 = 関シテハ差

シ當リ尤記諸件 = 付緩急ノ度 = 應シ

逐次之ヲ協議實行シ又ハ協定調印スル

モトス

第一 作戰

昭和十六年十二月十三日締結セラレタル日泰
協同作戰要綱ハ協同作戰ニ関スル協定
第五條ニ基ク細部協定ト見做ス

第二 航空及防空

一 泰國ハ日本軍ノ必要ニ應ジ其ノ飛行場
航空ノ補給修理其他ニ必要ナル諸施設
等ヲ日本軍ノ使用ニ供シ又ハ此等ヲ整備
擴張若ハ新設ス

0106

日本軍ハ所要ニ應シ右ニ協力ス

二 泰國ハ日本軍ハ必要ニ應シ其ノ航空

燃料 脂油 彈藥等ヲ日本軍ハ使用

ニ供ス

第三 軍事警察

一 日泰兩國關係機關ハ日本軍又ハ泰國

軍若ハ此兩者ニ對スル利益侵害行爲

ノ豫防及之カ排除ノ爲相互協力ス

二 日本軍事警察機関ハ取扱ヒタル事件中

敵性國人ニ関スルモノヲ除キ之ヲ泰國ノ警

察又ハ檢事當局ニ送致シ泰國官憲ハ

之ヲ審判シ其處置及判決ヲ日本軍事

警察機関ニ通報スルモノトス

第四 交通運輸

- 一、日本軍ノ泰國鐵道ニ依ル軍事輸送ハ
佛領印度支那、泰國、馬來鐵道相互間
ニ列車ヲ直通セシムルモノトス
- 二、日本軍ノ泰國鐵道ニ於ケル軍事輸送ハ
他ノ一切ノ輸送ニ優先ス
- 三、日本軍ハ軍事上必要トスル泰國港灣

ニ軍事海運地ヲ設定ス

四 泰國ハ日本軍ノ所要ニ應シ鐵道及
船舶ニ關スル運輸資材通信施設給
炭水施設修理工場事務所倉庫燃
料従業員諸施設ノ用地又ハ海(水)面
等ヲ日本軍ニ供用ス

五 日本軍ハ其ノ必要ニ應シ泰國鐵道及
船舶ノ運營救正備及警備ニ關シ泰國ヲ
援助ス

0110

六 泰國ハ日本軍ノ必要ニ應ジ日本軍用

諸施設内及所要作戰地ノ交通（水路ヲ

含ム）ヲ制限又ハ禁止ス

七 日本軍ノ鐵道及船舶利用ニ關スル一切

ノ事項ハ秘密扱トス

第五 通信

一 泰國ハ日本軍用通信網ノ構成及之カ

運用ノ爲所要ノ資材施設人員等ヲ

0111

供用スルモノトス

一 泰國ハ日本軍ノ必要ニ應シ泰國ノ無線電波ヲ統制シ又ハ泰國無線通信ヲ禁止スルモノトシ日本軍之ニ協力ス

第六 氣象

一 泰國氣象放送ハ其ノ暗號ニ關スル別段ノ協定成立スル時機迄當分ニテ實施セズ又其ノ氣象中樞機關ニ集ル氣象資料ハ

0112

之ヲ日本軍ニ回付スルモノトス

二 氣象觀測ハ毎日(日曜日ヲ含ム)所定

ノ時刻ニ之ヲ行ヒ其ノ結果ヲ盤谷

ニ速達ス

第七 衛生

泰國ハ日本軍ノ所要ニ應ジ病院用建築
物醫療器械及藥物ヲ供用ス

0113

第八 情報

日泰兩軍ハ作戰航空防空治安警備運輸
及交通通信宣傳防諜等ニ関シ必要ト認
ムル情報ハ適時相互ニ通報ス

第九 宣傳

協同作戰ノ實施ヲ有利ナラシムヘキ宣傳ニ
付テハ泰國ハ日本軍ノ要求ニ從ヒ所要ノ

0114

借置ヲ請ス

第十 防諜

一 泰國人、日本軍、安全ヲ害スルコトアル
ヘキ外國人ニ對シテハ其ノ國籍、如何ヲ
問ハス之カ排除、爲所要、指置ヲ
講ス 但シ日本人ニ關シテハ豫メ日本
官憲ニ通報スルモノトス

0115

泰國ノ郵便電信ハ非敵性國ニ對シテ
發信ス而シテ日泰獨伊各國官憲ニ
關スル郵便電信ノ外ハ凡テ平文トシ其ノ
用語ハ日泰支獨伊英語トス

二 泰國ニ出入スル敵國人ハ日本軍ノ特ニ
許容セラルノニ限ル

第十一 其他

一 泰國ハ日本軍隊軍需品及日本軍司令官

ノ物ニ定ムル軍人軍屬ニ對スル關稅及各種港稅ヲ免除ス

ニ 泰國ノ資材施設勞力等ニシテ日本軍ノ

使用ニ供シタルモノ又ハ之ヲ爲生シタル損害

ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ日本軍ニ

於テ之ヲ補償ス

0117

日泰協同作戰要綱ニ關スル件

日泰協同作戰要綱ニ關スル秘密諒解事項

一 昭和十六年十二月十三日在泰日本陸軍司令

官及在泰日本海軍代表ト泰國軍司令

トノ間ニ締結セラレタル日泰協同作戰要綱

ノ内容ハ日泰同盟條約 日泰協同作戰

ニ關スル協定及同細部ノ協定中ニ包攝

0118

セラレアリ

且軍事上ノ秘密事項ナルニ鑑ミ右協同
作戦要綱ハ協同作戦細部協定ノ一部
分ト看做シ且將來ニ於テモ公表セラレサ
ルヘキコトニ合意ス

昭和十六年十二月 日

日本陸軍司令官

日本海軍代表

泰國國軍司令官

0119

別冊第一

第二十五軍訓練研究ニ關スル指示

其一方針

熱地ノ風土ニ即應シ特ニ未開地ノ苦難

ヲ克服シテ連日戰鬥力ヲ發揮シ得ル如

ク練成ス

0120

其二 主要訓練綱目

一 陸上演習

概テ歩兵二、三大隊、砲兵一大隊、戰車二、三
中隊、工兵一、二中隊、機械化部隊ヲ以テ
良好ナル道路ニ沿ヒ敵ヲ急襲突破シテ
連續長距離作戰ヲ敢行シ得ル如ク練

0121

成ス（道路、兩側ニ於ケル森林及「ゴム」
林内ノ戦闘進路上ニ於ケル橋梁ノ確
保修理特ニ機ニ先立チ挺進行動ニ依
ル敵後方橋梁ノ確保ヲ含ム）
自動車ニ關スル幹部以下ノ技能ヲ特ニ
向上セシメ且交通統制ヲ嚴守セシムル如

0122

ク訓練ス

ニ上陸演習

ハ揚陸セラレタル軍隊附屬多數ノ車輛ヲ

敵ノ空中攻撃下ニ於テ迅速的確ニ整

理シテ速ニ作戦行動ニ移行シ得ル訓

練

0123

(2) 比較的波浪靜ナル海面ヲ小型船舶又

ハ舟艇ヲ以テ疎開渡航シ又ハ陸岸

傳ヒニ地歩ヲ進ムル行動、訓練

(3) 一般上陸作戰能力、向上特ニ水際樹

及遠淺海岸、上陸訓練

三 熱地ニ於ケル人馬、防疫体力保持増進

ニ關スル訓練及研究

四 「ジャンクル内ニ於ケル小部隊ノ機動及戰

闘ノ訓練及研究

0125

別冊 第二

第二十五軍情報蒐集調査ニ關スル指示

情報蒐集ニ關シテハ別冊對南方軍事調

査計畫ニ據ルノ外本指示ニ據ルモノトス

一南方作戰ノ基地及後方連絡線トシテ印

度支那ノ調査ヲ擴充ス

0126

1 印度支那ニ於ケル飛行場同施設及之カ
擴充ノ爲ノ諸元

2 南部印度支那特ニ西貢附近ニ於テ利
用シ又ハ建設シ得ル補給廠工場衛生施
設ノ候補地

3 北部印度支那ヨリ泰國ニ通スル各種交

通輸送路ノ諸元及之カ擴充ノ方策

4 南北印度支那ニ於テ利用シ得ル軍需品

ノ最大限度

二 英領馬來及泰國內兵要地理資料ノ蒐集

ニ關シテハ在泰國武官ト密ニ連絡スルモノトス

三 所要ニ應ジ馬奈木大佐ノ行ヲ調査業務

0128

日本
を
援助
ス

0129

陸軍

一、緬甸作戰ノ目的

復蘇路ヲ遮断スルコトヲ主眼トシ且爲シ得
レバ緬甸ノ自治ヲ促進シテ之ヲ英本國ヨリ
背反セシムルニ在リ

二、軍政ノ要目

- 一、横蘇路遮断作戰ノ成果ニ着目シ既定計画
ニ基テ緬甸獨立運動ヲ促進ス
- 二、右工作成功セバ緬甸新政權ヲ樹立ス
- 三、新政權樹立ニ際シテハ新政權ヲシテ左記要求ヲ
受諾セシム
- 一、新政權ハ英本國ト、關聯ヲ断テ帝國ヲ

盟主トシ大東亞共榮圏ニ加入スルコトヲ中
 外ニ宣明スルコト
 四 新政權ハ日本軍ノ駐屯並之ニ伴フ國防責
 ノ負擔ヲ承認シ且政權ノ主權者ニ對スル日
 本軍司令官ノ指導權ヲ承認スルコト
 八 日本國政府ハ新政權ヲ正式ニ承認スルノ時
 期ハ大東亞戰爭終末後トスルコト
 四 新政權樹立工作成功セル場合ハ油並鉛ヲ帝國
 ニ於テ取得運送スルニ勉ム
 五 新政權樹立工作成功セザル場合ニハ軍ニ占據
 地區ヲ確保シ軍が自治シ得ルヲコトヲ目途トシ
 テ軍政ヲ施行ス
 六 新政權樹立工作成功セル場合ハ南機關ヲ以テ
 軍政部トナス